

R7年度 地域ネットワーク会議 開催状況

地域包括支援センター	テーマ	話し合いにより分かったこと、課題
上野ヶ丘	介護予防の取組みについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>フレイルチェックで栄養に該当する人が多い。</li> <li>包括の役割について周知が不足している。</li> <li>マンション住民へのアプローチが難しい。</li> <li>地域活動の新規参加者が増えない。また、担い手が不足している。</li> </ul>
碩田	居宅介護支援事業所の役割と通いの場の活動に関する情報交換	<ul style="list-style-type: none"> <li>担い手育成のため、若い世代との交流が必要。</li> <li>サロンがない地域での立ち上げが必要。</li> </ul>
王子	高齢者の見守り支援について	<ul style="list-style-type: none"> <li>監視にならないよう、自然な形での見守り方法を1つでも2つでも増やしていく必要がある。</li> <li>人との関わりを好まない方の見守り方法が課題。</li> </ul>
大分西	災害に強い地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段からのつながり、既存サービスを活かした取り組みの強化が必要。</li> <li>災害時含め、地域の役員と事業所がどのように機能しているかを互いに理解しておく必要がある。</li> <li>地域の見守り体制の強化。災害時の移動体制の確認が必要。</li> <li>フレイル予防をすすめ、地域活動を継続していけるよう働きかけを継続する。</li> </ul>
南大分	地域の社会資源について	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民主体のサービスが後継者不足により終了している。</li> <li>地域で活動を継続的に進めていくための資金集めや人材の確保が必要。</li> </ul>
城南・賀来	災害時の高齢者支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民一人ひとりの防災に対する意識が低い。</li> <li>世代間の繋がりが薄く、災害時の地域での助け合いが難しい。</li> <li>地域での役割分担や連絡体制の構築が不十分。</li> <li>地域と介護事業所の顔の見える関係性の構築が必要。</li> </ul>
城東	地域の通いの場について	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者が高齢化している。若い方にも魅力のある活動が行えるとよい。</li> <li>各団体をつなぐ役割を担う人物が必要。</li> </ul>
滝尾	誰でも参加できる集いの場について	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域活動の担い手不足、参加者の減少が課題。</li> <li>地域活動に参加していない方への情報発信不足している。</li> <li>子どもから高齢者まで誰でも参加できる居場所づくりが必要。</li> <li>集いの場への移動手段が必要。</li> <li>関係者感での連携強化、コミュニティが必要。</li> <li>社会資源に関する普及啓発が必要。</li> </ul>
明野	災害について	<ul style="list-style-type: none"> <li>圏域内に消防団がない。</li> <li>社協、病院、事業所が協力できる災害支援の内容の整理が必要。</li> </ul>
原川	圏域内独自事業の現状と今後の展開に関する共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>桃園校区でも循環型介護予防の仕組みを展開させる必要がある。</li> </ul>
鶴崎	認知症について	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症疑いや認知症の方が地域で増加している。</li> <li>認知症の疑いに気づいた場合のアプローチの仕方が難しい。</li> </ul>
大東	困難事例の対応について	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者が困ったときに地域でサポートできる体制が必要。</li> <li>買い物や移動手段の確保が必要。</li> <li>徒歩範囲に通いの場が必要。</li> </ul>
東陽	介護保険と地域での暮らし	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護保険を予防の段階から利用できることを知らない人が多い。</li> <li>多世代の交流の場がなくなってきている。</li> <li>誰もが集える場がない。</li> </ul>
大在	免許返納後の高齢者の生活について	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の社会資源の周知、広報活動が必要。</li> <li>ネットスーパーやオンライン診療などの活用のため、スマホ教室等の開催が必要。</li> <li>地域の助け合い活動の更なる活性化が必要。</li> <li>移動手段の選択肢の拡大が必要。</li> </ul>
坂ノ市	安心して暮らし続けるための支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>買い物やサロン参加のために送迎が必要。</li> <li>地域の担い手が高齢化しており、後継者がいない。</li> <li>相談先が分からない。</li> </ul>
植田	免許返納後の社会資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域全体、高齢化が進んでいる。</li> <li>坂道が多くバスの便も少ないため、免許を返納すると外出が困難になる。</li> </ul>
植田西	防災対策と避難所運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化率が高い地域では「自助」が成立しづらい、行政による「公助」には限界がある。</li> <li>要支援者の早期把握と見守り体制の強化、地域のネットワークづくりが必要。</li> </ul>
植田南	高齢者を支える地域のネットワークについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域を支える関係者間のつながりを強化する必要がある。関係者側の高齢化と人材不足。</li> <li>高齢者の集える場所が少ない。</li> <li>8050世帯が孤立しやすい。</li> </ul>
植田東	多様な主体による生活支援の仕組みについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の独居、高齢者のみの世帯で些細な困りごとへの家族支援が望めないケースが増えている。</li> <li>安心して利用できる多様な主体による生活支援の選択肢が必要。</li> </ul>
竹中・判田	災害発生時の情報共有・連絡手段について	<ul style="list-style-type: none"> <li>有事の際に支援が必要な人の情報が関係各所と共有できていない。</li> <li>日頃から民生委員、自治委員、その他関係各所との連携を事前しておくことが必要。</li> </ul>
戸次・吉野	認知症高齢者の見守り・支援について	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の見守り体制強化のため、民生委員、居宅介護支援事業所、包括の連携体制の構築が必要。</li> <li>認知症の方やその家族が安心して過ごせる地域づくりが必要。</li> </ul>
野津原	大分市地域お互いさま活動事業について	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の掘り起こしのため住民への周知が必要。</li> <li>ボランティア団体との連携を図ることで支援の取りこぼしがないようにできるとよい。</li> <li>送迎支援については現時点では困難。</li> </ul>
佐賀関・神崎	詐欺防止について	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者独居、高齢者のみ世帯が多い地域であるため、詐欺被害に合うリスクが高い。</li> <li>高齢者に関わる関係者が連携し、詐欺防止対策を検討する必要がある。</li> </ul>

<用語の解説>

- 通いの場…地域住民同士が気軽に集い、「生きがいづくり」「仲間づくり」の輪を広げる場所。ここでは高齢者が対象の介護予防に繋がる場を指す。
- 8050世帯：80代の親が、50代の自立が難しい子どもを支えている世帯。経済的にも精神的にも強い負担を請け負うため社会問題となっている。